

## 第1学年 国語科

「お話の音クイズでお気に入りの場面を紹介しよう

～『おとうとねずみ千口』～

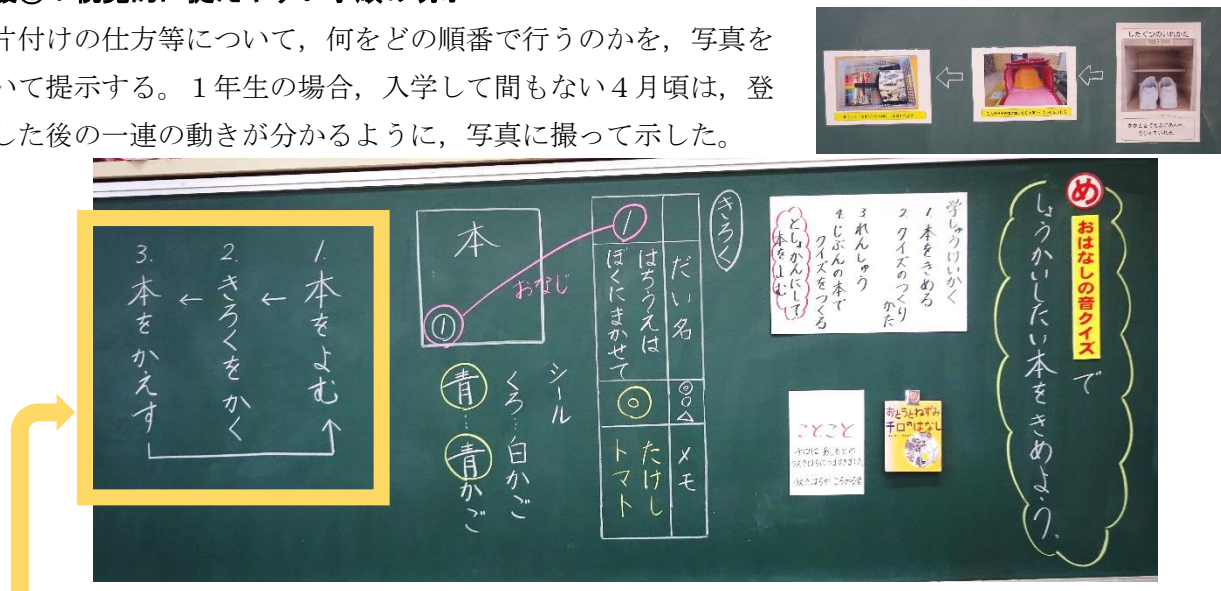


# 1 特別支援教育の視点から

香川大学の坂井先生にアドバイスをいただきながら、特別支援教育の視点から行っている支援について述べる。

## 支援①：視覚的に捉えやすい手順の明示

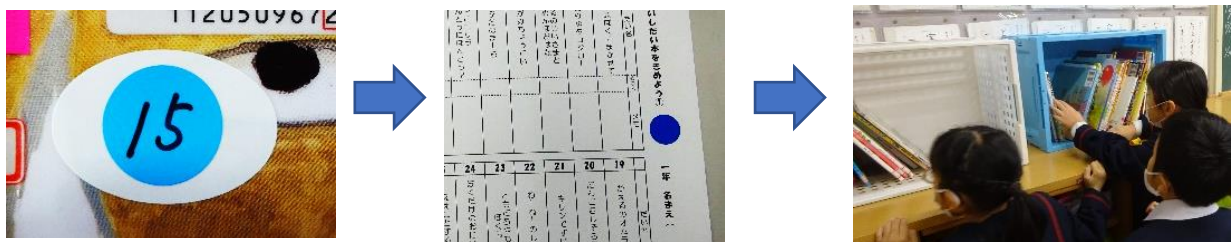
片付けの仕方等について、何をどの順番で行うのかを、写真を用いて提示する。1年生の場合、入学して間もない4月頃は、登校した後の一連の動きが分かるように、写真に撮って示した。



また、上の黒板のように、短い言葉で、活動の手順を示す。視覚的に捉えやすいように、文字の大ききさや色、行間の広さ等も工夫する。イラストで示すことも効果的である。

## 支援②：活動に困らないためのマッチング

「図書室の本」と「図書館の本」を分けて返却できるように、図書室の本は白かご、図書館の本は青かごに入れた。青かごに返却する図書館の本には、青色シールを貼っておいた。また、記録のワークシートは、片面が図書室の本の一覧、片面が図書館の本の一覧とし、図書館の方には青色シールを貼っておいた。このように図書館の本に関するものは全て青色で揃えておくことで、子供たちが活動をスムーズに行えるようにした。



「青色」シールの本は

「青色」シールのところに記録して

「青色」のかごの中に返します。

## 支援③：書くことへの負担を軽減する

書くことが苦手な子供にとって、書くことを強要されることは、学習への意欲低下につながる。特に入学当初の1年生は、書く力に個人差が大きい。学習のねらいが何なのかを意識し、それに応じた

支援をすることが大切である。

例えば、右図のような支援ができる。

読んだ本の記録をすることが負担にならないように、子供たちが書くのは必要のところだけに絞った。今回の場合は、本の題名は予め教師が入れておき、子供たちはその本が面白かったかどうかの◎○△と、内容を覚えておくためのメモ（必要な場合のみ）だけを書くようにした。

ほかにも、以下のような支援が考えられる。

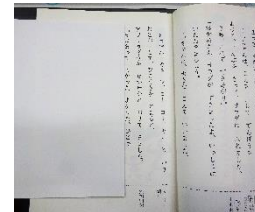
- ・子供の考えを聞き取って、代筆する。又は、大事のところだけを自分で書くようにする。
- ・板書等を写真に撮って、ノートに貼る。

8	7	6	5	4	3	2	1		
かじのしゅうほう	あらいぐまのヨッチー	ちびっこコロラ ほんとうにほんとう？	こぶたのまーち	おてがみちょうだい	かえるのじいさまと あめんぼおはな	おにぎりやタコソロー	はちうえはほくにまかせて	だい名	しゅつがいしたい本をきめよう①
								◎○△	
								メモ	

### 支援④：読むことへの負担を軽減する

教師や友達の音読を聞いて文章を目で追うことが難しかったり、音読をする際に誤読が多かったりする場合がある。そんな時には、必要な文章を焦点化できるような支援が必要である。

- ・指でなぞりながら読むことを促す。
- ・周りの部分を隠して、必要のところだけが見えるようにする。→
- ・文字を拡大し、字間を空けた文章を渡す。



### 支援⑤：授業の始まりと終わりを示す時計

見通しをもてないと不安に思う子供にとって、授業の終了時刻が分からないことで集中力が低下してしまったり、授業の開始時刻が分からないことで休み時間からの気持ちの切り替えが難しかったりすることが考えられる。そこで、授業の始まりと終わりの時刻を日めくりカレンダーのようにして提示し、視覚的に捉えられるようにする。始まりと終わりを明確にすることは、子供たちが安心して活動に取り組める支援となるだろう。



### 支援⑥：活動の終わりに見通しをもたせる合図

何かに取り組んでいる時、終わりの合図があってもなかなか活動を止められないことがある。活動に夢中になっていればいるほど、「まだ続けたい」という思いが強くなり、「止める」ことが難しくなるだろう。いきなり終わりの合図を伝えるのではなく、活動終了予定時刻の数分前にタイマーを鳴らす等「終わりの予告の合図」をすることで、残りの時間で何とか終わらせようという心の準備ができる場合がある。また、「この曲が終わるまでに片付けをしましょう」等のように、活動の時間に音楽をかけることも、終わりの見通しをもたせる支援となる。終わりが分かるからこそ、それに合わせて自分で調整していくことができるのだと思う。



### 支援⑦：教室環境の整備，机上の整理

子供たちの視界に入る情報が多すぎたり、余計な物が目についたりすると、思考の妨げになる場合がある。子供たちが集中しやすい環境作りも大切にしたい。

- ・教室の全面掲示や黒板に情報が多い → できるだけシンプルに
- ・運動場の様子や鏡が気になる → カーテンを閉める，画用紙等で鏡を隠す
- ・筆箱等で遊んでしまう → 机の中に片付ける

### 支援⑧：息抜きの場やサイン

席に座って学習することに慣れていない1年生にとって，45分間，ずっと座りっぱなしで集中力を保つのは難しい。授業の合間に動作化を入れたり，何かを取りに行ったりする等の動きのある活動を入れて気分転換を図ることで，再び集中して授業に臨むことができるようにする。また，座って授業を受けることが難しい子供には，「息抜きをしたい時のサイン」を決めておくことよい。子供がその合図を出した時には，体を動かして気持ちをリフレッシュする場を作るようにする。

### ★互いを認め合える学級作り

学級には，いろいろな特性をもった子供がいる。得意なことも，苦手なことも，それぞれ違っている。教師が子供たち一人一人を認める姿を見せることで，学級の子供たちも互いを受け入れていくようになるのではないだろうか。支援が必要な子供が特別扱いされるのではなく，「〇〇さんは，みんなが思いつかなかったことに気付けたんだよ。すごいね。」等と，それぞれの特徴をプラスで認め合えるような学級作りをしていきたいと思う。



## 2 支援員さんとの連携について

### ○「育てたい子供像」の共有化

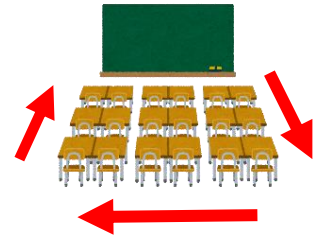
子供たちの成長を共に見守り，支援していくためには，「どのような子供を育てたいのか」を共有しておくことが大切である。目指すべきは「子供の自立」であり，どんな時にどこまで支援するのか等を早い時期に相談しておくことで，担任と支援員さんとの連携を図ることができ，子供たちに効果的な支援ができるを考える。

### ○情報交換を密にする

体調，怪我，表情，学習や生活での様子，子供からの訴え，効果の見られた（見られなかった）支援等についての情報交換を大切にしている。互いの情報を共有することで，その子供が必要としている支援に気付いたり，支援体制を見直したりすることができる。また，授業においては，子供の困り感が生まれそうなところを想定して，どんな支援をしてほしいのか前もって伝えたり，授業のねらいに合った言葉掛けや支援をしてもらえるようお願いしたりしている。時間を設定して情報交換の場をもつのではなく，子供たちが下校した後や就業前の朝の時間等を利用して，早い段階で情報を共有することを心掛けている。

### ○座席の工夫

子供たちの座席は、支援員さんの動きやすさも考えて決めている。個別の支援が必要な子供は、教室の真ん中辺りの席ではなく、壁際や廊下側の列、一番後ろの列にしておくことで、支援員さんが支援に入りやすい。



★支援員さんのおかげで、支援の必要な子供たちの困り感は軽減され、笑顔で学校生活を送ることができている。また、教師も日常の多くの場面で、支援員さんに助けられている。感謝の気持ちを忘れず、支援員さんとのよりよい人間関係を築くことが、子供たちへのよりよい支援につながるのではないだろうか。

### 〈参考文献〉

- |                     |        |       |
|---------------------|--------|-------|
| ・小学校学習指導要領解説 国語編    | 明示図書出版 | 2018年 |
| ・小学校新学習指導要領 ポイント総整理 | 東洋館出版社 | 2017年 |
| ・国語科の資質・能力と見方・考え方   | 明示図書出版 | 2015年 |
| ・国語授業における「深い学び」を考える | 明示図書出版 | 2015年 |